

国東半島峯道ロングトレイル



大不動岩屋

コンセプト

国東半島で古くから行われてきた六郷満山峯入行（ろくごうまんざんみねいりぎょう）のコースをベースに、トレッキングやウォーキングの醍醐味を味わうことのできる登山道や遊歩道を追加するなどの工夫を加え、楽しく、そして心地よく歩けるトレイルとして再構成したものです。世界農業遺産にも認定されたこの地域には、豊かな自然だけではなく、何世紀にもわたる伝統的な農業が形づくった文化や景観、環境や自然条件を受け入れ、適応してきた先人の知恵を見ることができます。また、宇佐・国東半島は神仏習合発祥の地。コースのいたるところにある有名無名の石造文化財や名もなき野仏は、まさに「み仏の里」と呼ばれるにふさわしいところです。この、日本の原風景の中を歩く旅——それは、失われかけた日本人の魂に触れる旅となるでしょう。

トレッキングルール

- ◎トレイルから外れないように歩きましょう。
- ◎服装、道具など十分な装備を整えて登山に臨みましょう。
- ◎宿泊は決められた場所で行いましょう。
 - ※トレイル及び登山口付近にはテント指定地はありません。近くのキャンプ場や宿泊施設をご利用ください。
- ◎トイレは公共施設か携行トイレを利用しましょう。
- ◎動植物を大切にしましょう。
- ◎文化財を大切にしましょう。
- ◎ゴミはすべて持ち帰りましょう。
- ◎山林火災につながるような火の取り扱いはやめましょう。
- ◎誰もが気持ちよく楽しめるよう、他人への配慮を忘れないようにしましょう。
- ◎事前に情報を収集し、安全で余裕のある計画を立てましょう。



コース T-1



▲T-2のゴールを兼ねる

熊野磨崖仏（くまのまがいぶつ）

平安時代中期～鎌倉時代前期の作といわれ、国指定重要文化財と国指定史跡に指定された大分を代表する磨崖仏。日本最大級の大きさ誇る。岩肌に刻まれた不動明王像と大日如来像。その柔らかな表情からは慈悲の心を感じられ、訪れた人々をやさしく癒す。向かって左手に鎮座する不動明王は約8m、その隣の大日如来像は6.8mと、とても大きく、当時の信仰の強さを物語っている。



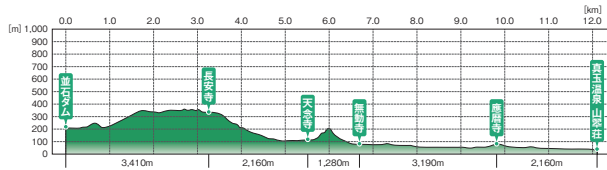
真木大堂（まきおどう）

真木大堂の名で知られる馬城山伝乗寺（まささんてんじょうじ）跡は、収蔵庫内に阿彌陀如来坐像をはじめ、日本一の大きさを誇る大威徳明王像、不動明王像、二童子立像、四天王立像の計9体の平安仏が保存・公開されている。真木大堂自体は、約700年前に火災のため焼失してしまい、残っている仏像は、当時の人々の厚い信仰のおかげで難を免れ、今日に至っている。



屋山の緩やかな登山道から 荒々しい天念寺耶馬の岩峰を歩く12.2km。

桜の名所の並石ダム湖畔がコースの起点。まずはダム湖畔の遊歩道の途中から山の中に入り、屋山の腹にある長安寺へ。花の寺として有名な長安寺に立ち寄った後は、山中の遊歩道を北西に下ると天念寺がある。寺の前を流れる長岩屋川には川中不動があり、天念寺に隣接した鬼会の里歴史資料館は豊後高田名物の手打ちそばなどが味わえる。次は無明橋で知られる天念寺耶馬を越えて隣の谷の無動寺へ。無動寺からは椿堂や椿光寺、應暦寺に立ち寄りながら終点の真玉温泉 山翠荘を目指す。



▲T-2のゴールを兼ねる ▲T-4のスタートを兼ねる

天念寺（てんねんじ）

養老2年（718）に仁聞菩薩が開基したと伝えられ、峯入修行の寺院であった寺。また、天念寺を中心に天念寺耶馬、川中不動、鬼会の里など、魅力あふれる景観や重要文化財があります。毎日暦正月7日に、福を呼ぶ先祖の化身である鬼が舞う奇祭「修正鬼会（しゅじょうおにえ）」（国の重要無形民俗文化財指定）が行われ、多くの観客が集う。

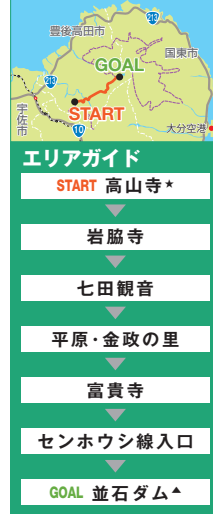


無動寺（むどうじ）

最盛期には椿堂を含め12坊を持っていたと言われており、六郷満山の中でも有力な寺院だった。現在、本堂・庫裏・観音堂・身濯神社（六所権現）・奥ノ院などがある。その境内には鎌倉～南北朝時代の宝篋印塔が立っている。本尊には県指定有形文化財の不動明王坐像。そのほか薬師如来坐像（2体）・大日如来・阿彌陀如来像・馬頭観世菩薩・地藏菩薩・不動明王立像など多くの本尊が安置されている。



コース T-2



▲T-1のゴールを兼ねる ▲T-3のスタートを兼ねる

高山寺（こうさんじ）

六郷満山本山本寺の一つで、標高571mの西叡山にあるが、古くから地元では「高山」と呼ばれる。江戸時代、「豊後国志」によると、高山寺は「旧七堂伽藍有り。堂宇荘嚴、今廃す。礎石堂存す。」とあり、大規模な寺院であったことが想像される。標高350m付近の場所に高山寺跡を示す標柱が立っており、そのあたりから、古代の遺物や中世の煮炊き用の土器片が採取されている。



富貴寺（ふきじ）

天台宗の古刹で、平等院鳳凰堂・中尊寺金色堂と並んで、日本三大阿彌陀堂と呼ばれている。現存する木造建築としては九州最古のもので、国宝に指定。大堂の内部には国の重要文化財である阿彌陀如来坐像が鎮座し、その背後には極楽浄土の世界が描かれている。紅葉の名所でもあり、秋には境内の一面にイチョウが舞い落ちて幻想的で落ち着いたたたずまいを見せる。



コース T-4



▲T-3のゴールを兼ねる ▲K-1のスタートを兼ねる

猪群山【ストーンサークル】（いのむれやま）

豊後高田市真玉にある猪群山は低山ながら、西国東でも最も目立つ山である。山頂の東にあるストーンサークルは古くから有名で、昭和56年には作家の松本清張氏と考古学者の斎藤忠氏が登って話題となった。入口には陰陽石があり、その先はかつて女人禁制とされた結界の世界。一際目立つ御神体石を中心として配された巨大な列石は一見の価値がある。



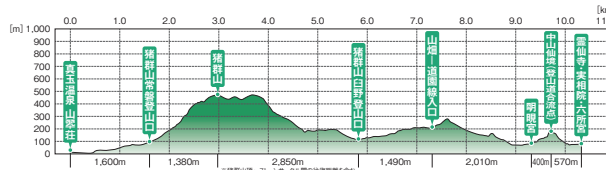
中山仙境（なかやませんきょう）

豊後高田市夷にある中山仙境は標高こそ低いものの、奇岩絶峰の連なるスリリングな岩尾根歩きが楽しめる場所。そのため、部分的に危険な場所もあるので、悪天候のときは縦走しない方が良い。登山口はいくつかあるが、ロングトレイルコースでは道園地区にある明観宮の横が取り付きとなる。ルート上には無明橋や最高点の高城からの絶景、隠洞穴など見どころが多い。



豊後高田コースの核心部、猪群山から中山仙境へ国東半島の奥地へと続く10.3km。

コースの起点は良質な泉質の真玉温泉 山翠荘。そこから県道654号線を400メートルほど西進し、目印の道標から猪群山へ。猪群山には巨石や山頂の東にあるストーンサークルなど見どころが多い。山頂から白野地区に下りた後は、山畑一道園線の入口から再び山道に分け入って道園地区へ。朝晩宮の横から取り付き、中山仙境の登山道合流点より河川公園へ下り、終点は霊仙寺・実相院・六所宮となる。なお、中山仙境の登山合流点より無明橋や最高地点の高城へのルートもあるが、鎖場や細尾根歩きなどがあるため注意が必要。



※猪群山山頂～ストーンサークル間の往復距離を8km